

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・ <u>学校生活</u> ・その他		
障 害 種	弱視・難聴・ <u>知的障害</u> ・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	日常生活		
タイトル	人との距離。清潔に。		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	① いつもと違うことがあると落ち着かなくなる。 ② 人との距離の取り方が難しく、近くに寄ってしまう。 ③ ポケットにハンカチをいれることを嫌がる子や取り出して遊び出すなど、清潔に保つことが難しい子がいる。 ④ マスクを嫌がる。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	②感染防止に必要な距離を保って離すことができる。 ③手洗い後には、清潔なハンカチで拭くことができる。 ④マスクを外してもいいとき、だめなときが分かる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	②個別学習は、パーテーションによってしきる。 ③入室前、授業の前には手あらい、消毒をする。水道が近い通路を教室の入り口とし、ハンカチを吊るすようにする。 ④「よみきかせ」「ビデオ」「べんきょう」「たいいく」の時間は外してもいい。自身のロッカーの上にある袋の中に入れる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

①学校再開となった初日から、同じ約束事で進める。

②個別学習の机（２名分）の様子。



③特別支援学級の入口。



④その都度、外したマスクの置き場所を確認する声かけをする。

動画も利用し、マスクの大切さや手を洗う意味を意識させている。

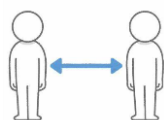
指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	日常生活、保健行事、図書館利用時		
タイトル	ソーシャルディスタンスを意識した校舎内表示		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	人との距離の取り方が難しく、視覚支援が必要な児童が多い。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	1 m以上空けて、並んで待つことができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	日常生活の様々な場面に応じた人との距離を提示し、ソーシャルディスタンスを意識して並ぶ習慣をつけさせ、感染拡大防止を進める。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

〈ソーシャルディスタンスイラスト〉各教室及び校舎内に掲示。



〈場面ごとの表示〉場面に応じ、テープを色分けしている。また、何の表示であるかイラスト等補助シートも掲示している。



←健康診断用

(ピンク)



←手洗い

トイレ用 (緑)



←朝の健康

チェック用

(青)

〈図書館〉出入り口を一方通行にした。貸し出しの際の並び方は、絵本のイラストをつけたポイントを貼っている。



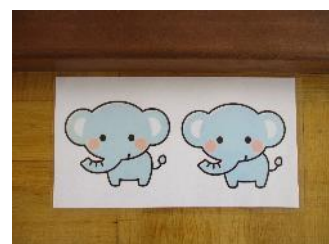
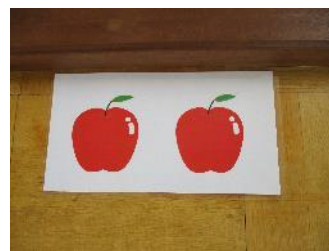
指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学習場面、学校生活		
タイトル	ソーシャルディスタンスの工夫		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	したいことがあると、人との距離を考えずに、目的に向かってその場所に行ってしまう。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	人と距離を置いて行動できる。 マークで自分の場所が確認できるため、安心できる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	感染防止に必要な距離を置いて遊ぶことができる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・教室の隅に、上靴を脱いで遊ぶスペースがあるが、3人が距離を置いて上靴を脱ぐことができる。
- ・友達と距離を置いて遊ぶことができる。
- ・自分のマーク（うさぎ、ぞう、りんご）があることで安心する。
- ・マークに合わせて靴を並べ、脱ぐことができる。
- ・遊び終わった後も、マークにある靴を履くので距離を置いて行動ができる。



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・ <u>通常の学級</u> ・その他		
校 種	<u>小学校</u> ・中学校	学 年	<u>1・2・3・4・5・6</u> 年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・ <u>学校生活</u> ・その他		
障 害 種	弱視・難聴・ <u>知的障害</u> ・肢体不自由・病弱・言語障害・ <u>自閉症・情緒障害</u> ・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	日常生活		
タイトル	人との間かくを空けよう		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	給食準備の時、各学年の当番が密集してしまい、人と人との距離が近くなったり混雑したりしてしまう。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	コンテナ付近に密集せずに、間隔を空けて準備できるようにする。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	給食室への出入りの方向や距離を保てるように視覚支援する。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・廊下やトイレ、出入り口等で並ぶときの立ち位置を足跡マークで示す。楽しく足跡に注目できるように足跡のマークをいろいろな形にする。
- ・ランチルームには、入る方向を赤のビニルテープの矢印で示す。出る方向は緑のビニルテープで示す。
- ・来た児童と出る児童が混ざらないようにロープで仕切りをする。足跡マークもつける。
- ・支援者がついて、視覚支援通りに進めるように声かけをする。

足跡マーク



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学習場面、日常生活		
タイトル	どこでもソーシャルディスタンスをとろう！		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	人との距離の取り方が難しく、最初はきちんと距離を取っていてもだんだん近くに寄ってしまいがちである。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	感染防止に必要な距離を保って活動することができる。 移動可能であるため、あらゆる場面で使用することができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	普段の生活の中で、感染防止に必要な距離を体験する。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・ゴム製のラバーリングの中に児童が入ることにより、ソーシャルディスタンスを学ぶことができる。
- ・もともとは、自分の位置を明らかにするためにA児だけが用いていた。それを距離をとることを学ぶためにいっしょに学習する全員が色違いで使用することにした。
- ・体育の備品で、直径40センチ厚さ4ミリと薄く躓くこともない。
- ・簡単に移動ができるので、あらゆる場面で使用することができる。絨毯敷きの教室でも使用することができる。



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	自立活動 学級活動 学校生活		
タイトル	ソーシャルディスタンスってどのくらい？		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	ソーシャルディスタンスという言葉は聞いた事があるが、意味が分からない児童や意味は分かるが距離が分からない児童がいる。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	自分たちの体、身近な物を使ってソーシャルディスタンスを作ってみることで、感染予防に必要な距離感を知る。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	毎日眼に触れることで、ソーシャルディスタンスの距離感が身につくよう掲示する。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・ソーシャルディスタンスを160cm～170cmに設定し、それくらいの身近な物を探させる。
- ・160cm～170cmの一番身近な物として、自分達の体（手を挙げた状態）であることに気付かせる。
- ・実際に児童の身体の型をとり、人型に絵の具で色を塗って完成させる。
- ・特別支援学級と職員室前に掲示し、全校児童の眼にふれる場所に掲示する。
- ・児童の絵に親しみを持ち、特別支援学級の児童だけでなく、全児童の興味をひくことができる。

